

平成 25 年 5 月 28 日

平成 24 年度
事業報告書

社会福祉法人ファミリーユ高知

平成 24 年度 社会福祉法人ファミリーユ高知 事業報告書

評議員会、理事会の開催状況

第 1 回 評議員会・理事会

- 日時 平成 24 年 5 月 29 日（火）PM6：00～PM7：00
場所 社会医療法人近森会 近森病院 管理棟 3 階 5 会議室
議題 1 平成 23 年度事業報告（案）の件
2 平成 23 年度決算書（案）の件
監事監査報告
3 経理規程変更の件
4 その他

報告事項

- 1 財団法人 J K A 補助事業について
- 2 アルバーテ北本町事業報告

第 2 回 評議員会・理事会

- 日時 平成 24 年 9 月 21 日（金）PM6：00～PM7：00
場所 社会医療法人近森会 近森病院第二分院 6 階 会議室
議題 1 平成 24 年度補正予算書（案）の件
2 運営規程変更の件
3 その他

第 3 回 評議員会・理事会

- 日時 平成 24 年 12 月 27 日（木）PM6：00～PM7：00
場所 社会医療法人近森会 近森病院 管理棟 8 階 職員食堂
議題 1 新事業について
(1) 相談支援事業所事業計画（案）の件
(2) 放課後等デイサービス事業計画（案）の件
(3) 放課後等デイサービス予算（案）の件
(4) 放課後等デイサービス事業所改修工事に伴う建設委員会設置の件
(5) 新事業開始に伴う定款変更の件
2 その他

報告事項

- 1 アルバーテ北本町事業報告

第 4 回 評議員会・理事会

- 日時 平成 25 年 3 月 26 日（火）PM6：00～PM7：00
場所 社会医療法人近森会 近森病院 管理棟 3 階 1 会議室
議題 1 平成 25 年度事業計画（案）の件
2 高知ハビリテーリングセンター事務所改修工事の件
3 平成 25 年度予算書（案）の件
4 平成 24 年度二次補正予算（案）の件
5 就業規則変更の件
6 基本財産の処分に伴う定款変更の件
7 その他

報告事項

- 1 障害者福祉サービスセンターウェブ機器購入について
- 2 キュール進捗状況

平成24年度 社会福祉法人ファミリーユ高知 事業報告書 目次

<目次>

障害者福祉サービスセンターウェブ事業報告	4 頁～9 頁
グループホームポルト事業報告	10 頁
高知ハビリテーリングセンター事業報告	11 頁
高知ハビリテーリングセンター 自立訓練事業報告	12 頁～15 頁
高知ハビリテーリングセンター 生活介護事業報告	16 頁
高知ハビリテーリングセンター 就労支援事業所 就労移行支援事業報告	17 頁～20 頁
高知ハビリテーリングセンター 就労支援事業所 就労継続支援B型事業報告	21 頁～23 頁
高知ハビリテーリングセンター 施設入所支援事業報告	24 頁
高知ハビリテーリングセンター 短期入所支援(空床型・併設型)事業報告	25 頁
はるのハビリホーム 共同生活援助(GH)・共同生活介護(CH)事業報告	26 頁
高次脳機能障害支援拠点 高次脳機能障害相談支援センター 事業報告	27 頁～32 頁
高知ハビリテーリングセンター(全体)報告	33 頁～37 頁

平成 24 年度 障害者福祉サービスセンターウェブ事業報告

I. 総評

ノーマライゼーションの基本理念のもと、当事業所では平成 24 年度も以下の重点項目を念頭に活動した。

① 「就労の機会を提供する」

就労継続支援 B 型登録定員 40 名に対し、実人数 66 名、延べ利用者数は平均 692 名で、1 日平均利用者数は 27.1 名であった。

新規利用者 11 名、障害の内訳は、精神が 9 名、知的 2 名、身体が 0 名となっている。また受給者証の発行地域別では、高知市が 10 名、須崎市が 1 名であった。退所者は 7 名で、退所後の内訳は他の就労継続支援 B 型事業所、入院、その他が各 2 名、就労移行支援事業所が 1 名となっている。見学件数は 39 件。体験利用者 18 名で、障害別の内訳は精神 11 名、知的が 3 名、身体が 3 名となっている。うち、養護学校の学生 3 名の実習も含まれている。また、学校の授業の一環として、中学 2 年生が 1 名 3 日間の職場体験を実施した。全体として各機関からの紹介もあり、利用数は順調に増加している。特に精神科デイケアより、治療の段階がおちつき、次のステップとして、就労を目指したいという方が増えている傾向がある。

20 代が増えたことで若い層を中心に、今後さらにステップアップを希望される方と、今のペースでゆっくりと働いていきたいという、50 代、60 代の二極化が進んでいる。ステップアップを希望されている方には働くことに、慣れてきたら就労移行支援事業所や就労継続支援 A 型事業所などの見学や体験を促していく。ゆっくりと働くことを希望されている方には、日中活動の場として、生活と就労のバランスを見ながら利用を継続しやすい環境を整えていく必要があると考えている。

② 「利用者の人権尊重とニーズに添った支援」「日常生活マナー・スキル・社会性の向上・可能性の開拓」

利用者自身がどんなことをしたいか、やれると思うのか、ニーズ自体が不明確なため、作業所の 1 階クリーニング・喫茶・パン・雑貨などの販売作業と 2 階の軽作業、そして屋外作業の大きく 3 つに分かれている部門の種目を開拓し利用者の興味や選択幅を増やすようにした。

人権尊重に係る倫理的問題や苦情は無かった。

「日常生活マナー・スキル・社会性の向上」に関しては人との適切な距離の取り方、生活と仕事や余暇のバランスなどさまざまな点で関わりを持つことが多くなっている。スタッフとの日常的関わりの言動から職員自らが社会人のモデルとなるよう行動すると同時し、サービス管理者は無論、支援員全員が個別の関わりと傾聴に努めた。定期的な振り返りを行うなどして、利用者自身の対処能力を高める支援をおこなっていきたい。教育研修・身体の健康維持のため毎日の血圧チェック・禁煙の働きかけ・コミュニケーション促進のための朝礼やミーティングも重視した。

③ 「誇りと自信が持てる工賃の見直し」

「ウェブの工賃ルール」という表現で工賃規定を作成した。又利用者個々に工賃の算出方法と改定について説明をおこなった。「工賃算出チェックリスト」は利用者の納得も得られ、「自分のがんばっているところを認めてもらいうれしかった。今後どんな点で頑張ればよいか分かって良かった」という反応が多かった。

時間額工賃総額：8,613,451 円・時給換算額：248 円の結果となった。

(H22 年度 162.5 円⇒H23 年度 228.3 円)とわずかであるが目標工賃達成加算をクリアした。

④ その他

●職員の人事異動もなく安定・充実した 1 年で、経営的にも軽微だが黒字を計上した。

●3 月末に高知県障害者自立支援基盤整備事業費補助金で洗濯機・乾燥機を 1 台す

つ購入でき、平成24年度のクリーニング作業の生産性向上が図られることになった。

●インシデント報告1件：道路清掃現場に利用者を搬送中、車のドアの締め方確認不足で手指骨折を疑い受診したが骨折なく腫脹に対するシップで良かった。

●防火・震災対策は安全・防災委員会を中心に規定通りおこなった。

●広報委員会は法人の季刊誌作成に研修会やイベントの様子を報告し、ポルトからは入所している利用者のお薦めの品物や日常の紹介を掲載してきた。今後もウェブやポルトの状況が読者に少しでもわかるように写真とともに伝えていけたらと考えている。

●教育研修委員会：平成24年度は初めて利用者研修を行った

第1回 5/29(火)	好きな色、自分に似合う色はどんな色？	加-コデ イネ-ター 小谷隆子先生
7/31(火)	タバコの害について 健康被害	近森病院看護部長 久保田聡美先生
9/19(水)	お口の健康について 8020運動	近森リハ病院歯科衛生士 楠瀬香先生
11/22(木)	リハビリへの思い しょうがいと共に働く	高知バビリーリングセンター長 上田真弓先生
3/13(水)	睡眠と薬について知ろう 自分の生活に合った自分らしいパターン	松山記念病院 土井温昌先生

上記のように外部から講師を招き講演をしていただいた。利用者からも「役にたった」、「研修に出てよかった」、「タバコを止めようと思う」などの声が聞かれた。その他、バレンタインデーに超ミニチョコのプレゼント、春のレクリエーションとして、高知文学館見学と高知城の花見を企画し、秋には桂浜の龍馬記念館・わんぱくこうちへ行った。年末の定番、天下味焼肉食べ放題やクリスマスも好評だった。

職員への研修は、近森病院第二分院の研修を中心に県社協やその他の研修にも多くの職員が参加できた。又、ハビリーリングセンターとウェブでの合同事例発表会は相互の支援内容や技術、抱えている問題などへの理解を深めることができた。

Ⅱ.その他詳細資料

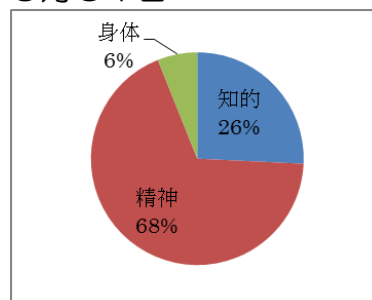
H24年4月1日～3月31日

1.障害種別

※ 実人数 66

障害種別	
知的	17
精神	45
身体	4

(人)

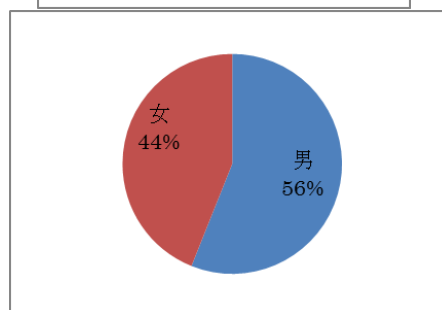


2.性別

※ 実人数 66

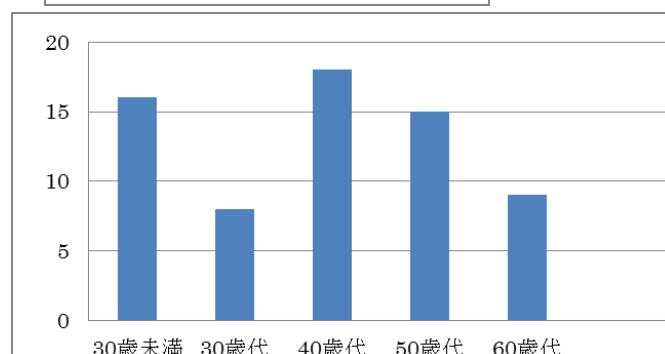
性別	
男	37
女	29

(人)



3.

年齢別	
30歳未満	16
30歳代	8
40歳代	18
50歳代	15
60歳代	9

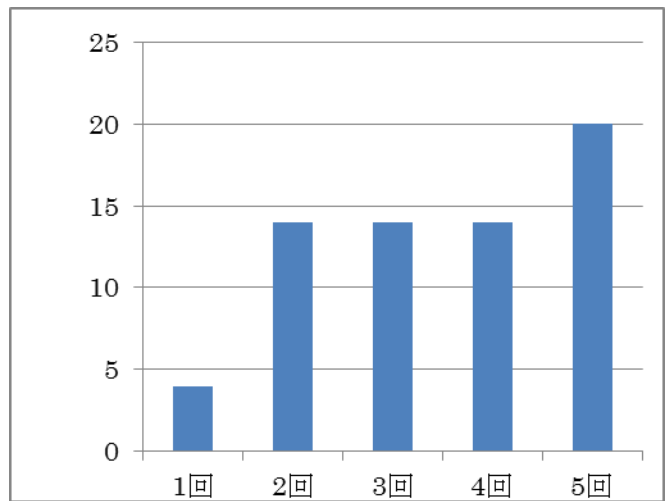


4.利用頻度別

※ 実人数 66

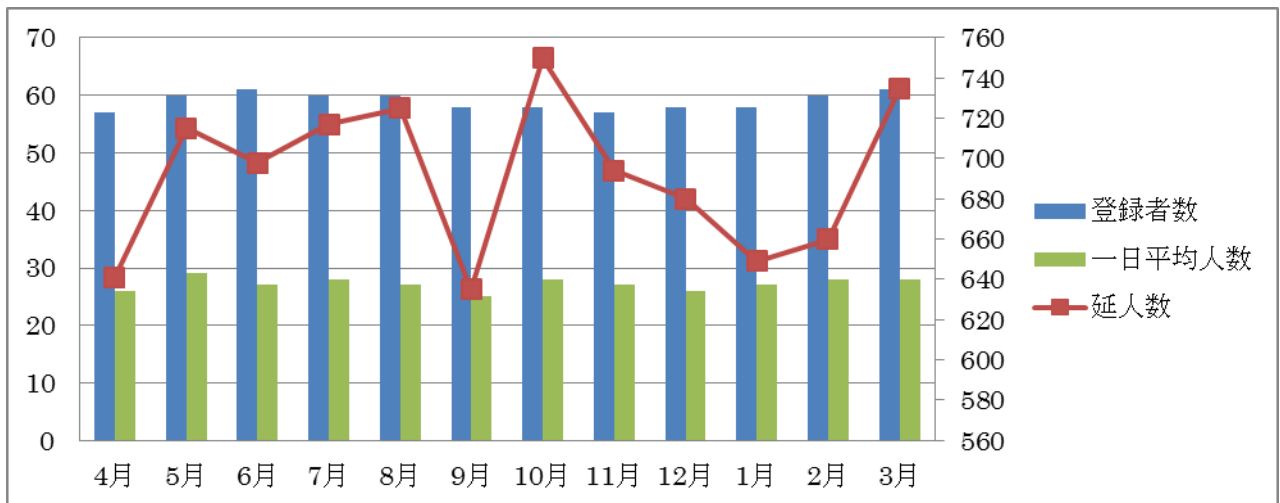
利用頻度（1週間の内）	
1回	4
2回	14
3回	14
4回	14
5回	20

(人)



5.月別利用状況

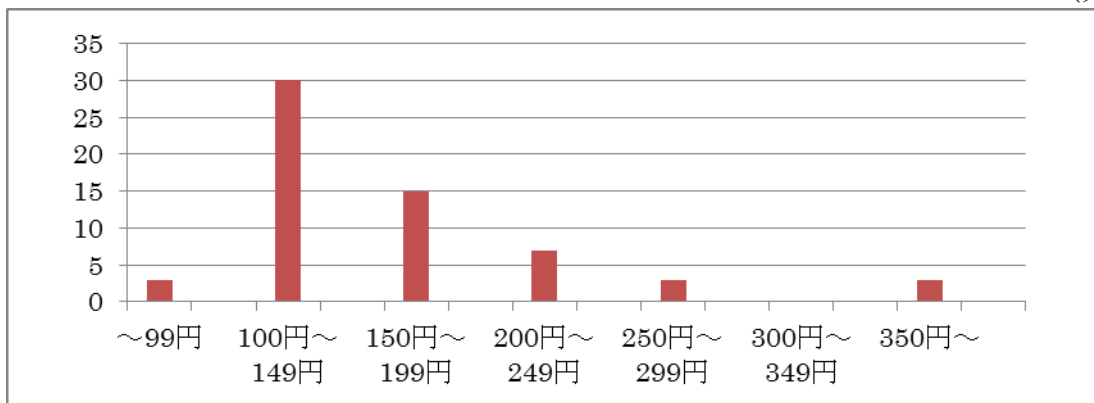
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
登録者数	57	60	61	60	60	58	58	57	58	58	60	61
延人数	641	715	698	717	725	635	750	694	680	649	660	735
一日平均人数	26	29	27	28	27	25	28	27	26	27	28	28



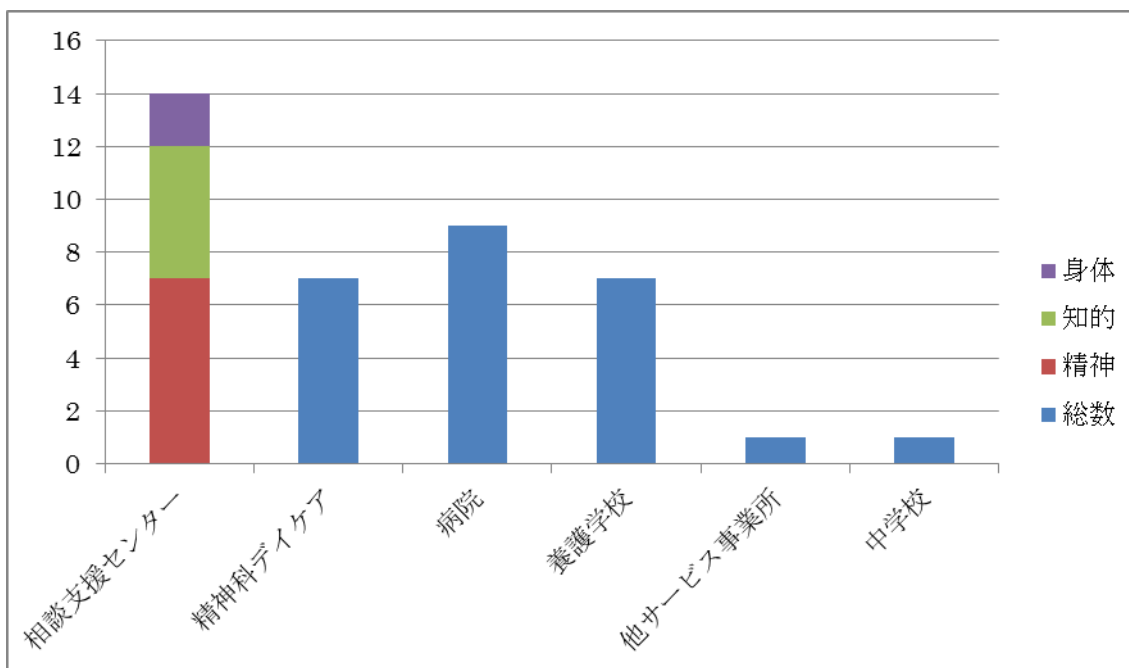
6.利用者工賃（時給）※平成25年3月の工賃より算出（対象者61名）

～99円	100円～ 149円	150円～ 199円	200円～ 249円	250円～ 299円	300円～ 349円	350円～
3	30	15	7	3	0	3

(人)



7. 紹介別



8. 作業種目と協力施設

作業の種目・協力施設					
作業種目	取引先	作業内容			
クリーニング	近森会	ユニフォーム、病棟洗濯物、個人洗濯物のクリーニング			
	松田会	ユニフォームのクリーニング			
	イオンスポーツクラブ	バスタオルなどのクリーニング			
開発商品 作業	エプロン	近森会	使い捨て紙エプロンの作成		
	クッション	近森会	病棟来客用クッションの作成		
委託作業	高知県 社会 就労 セン ター 協 議 会 (S E L P)	西村膳写堂	DM、箱作り		
		望月製紙	ティッシュ、パンフレット		
		フロムハート	ボトルシールはがし		
		高知県理学療法士会	DM		
		高知県言語聴覚士会	DM		
		近森会	DM		
		梱包	粉末	ブドウ糖	シール貼り・計量 入れ・箱詰め
				Zクリーン	
				フラックス	
				カルシウム	日付スタンプ・計量 入れ・箱詰め
			液体	リキッド	計量・入れ・箱詰め
			その他	木材	入れ・閉じ・大袋詰め
				ストラップ	紐つけ・台紙付け 入れ・閉じ・シール
				入浴剤	ふるい・計量・入れ シーラー・袋入れ
				消臭剤	入れ・シール・箱詰め 各送付先分別
			シール貼り	ボトル	Zクリーン
		縫製	シーツ		修繕(ミシン)
			枕カバー		裁断・線引き・縫製(ミシン)
		箱折り	大箱・小箱・仕切り・セット		
		釣り針	漁業用釣り針作り		
焼印	木材へ焼印づけ (ドミノ・コースター・箸)				
単発	シール貼り	OP	シール・箱詰め		
	高知ハビリテーリングセンター (アルペーテ北本町)	花壇管理	水やり・清掃・花切り		
販売作業	直営	パン販売	高知ハビリテーリングセン ターより仕入れたパン		
		喫茶	接客業務		
公益事業(清掃)	高知市都市整備公社	公園清掃	園内清掃・雑草除去		
	高知市環境政策課	道路清掃	指定道路の清掃		

9. ウェーブの工賃ルール

○工賃とは利用者がウェーブで行った仕事の量や正確性、時間などを計算して 1 か月分を翌月 10 日に支払うものです。

○入所して 3 ヶ月は見習い期間として工賃は一律 100 円になります。

○道路清掃と公園清掃に関しては公共事業のため規定があってそれぞれ道路清掃 700 円、公園清掃 260 円となります。

○クリーニング作業で専門性の高い作業をおこなうと、時給に加算がつきます。

○賞与はその年度の実績を考えて支給します（原則として 12 月）

○入院や療養で長い間ウェーブにいくことができなくなった場合は、利用できるようになってから 1 か月程度作業状況の様子を見て工賃の金額を考え直す場合があります。

名前		工賃算出チェックリスト					算出日						
領域	チェック項目	内容					A	B	C	D	E	点数	
Ⅰ日常生活	1	生活リズム	作業に支障が出ない生活ができている					3	2	1			
	2	健康状態	健康に気をつけ服薬管理し、良好な体調を保つことができる					3	2	1			
	3	身だしなみ	場に応じた服装をし、清潔であるなど身だしなみができている					3	2	1			
	4	規則の遵守	規則や決められたことを守ることができる					3	2	1			
	5	出席（出勤）状況	正当な理由（通院、病気、電車の遅れ等）のない遅刻・早退・欠勤がない					3	2	1			
Ⅱ対人関係	6	挨拶・返事	相手に応じた挨拶・返事ができる					3	2	1			
	7	意思疎通・会話	会話に参加し、話についてくることができる					3	2	1			
	8	意思表示	自分の意思（参加したい、休憩をとりたい、助けてほしい等）を伝えることができる					3	2	1			
	9	情緒の安定性	感情のコントロールができ、安定している					3	2	1			
	10	協調性	他者と力を合わせて助け合うことができる					3	2	1			
Ⅲ作業力	11	体力	1 日（5 時間）を通して作業ができる体力がある					5	4	3	2	1	
	12	指示内容の遵守	指示通りに作業を行える					5	4	3	2	1	
	13	器具・道具の使用	作業機器や道具類を正しく使用できる					5	4	3	2	1	
	14	正確性	ミスなく正確に作業できる					15	#	9	6	3	
	15	作業速度	必要とされる作業速度である					15	#	9	6	3	
	16	作業変化への対応	作業の内容、手順等の変化に対応できる					5	4	3	2	1	
	17	判別力	間違いや不良品の見分け、部品や伝票等の判別ができる					5	4	3	2	1	
	18	判断力	作業状況を適切に判断することができる					5	4	3	2	1	
	19	丁寧さ	作業を丁寧に行うことができる					5	4	3	2	1	
	20	作業対応力	より多くの作業を一定レベルの基準を超えてできる					10	8	6	4	2	
Ⅳ作業への態度	21	就労意欲	働く意欲がある					5	4	3	2	1	
	22	質問・連絡・報告	必要な時に適切な質問・報告（作業の終了や失敗等）・連絡ができる					4	3	2	1		
	23	時間の遵守	時間（作業開始、締め切り等）を守ることができる					4	3	2	1		
	24	積極性	作業に自分から積極的に取り組める					5	4	3	2	1	
	25	集中力	作業への集中力がある					4	3	2	1		
	26	責任感（遂行力）	与えられた作業や当番などを最後まで行える					4	3	2	1		
	27	整理整頓	作業場の整理整頓ができる					4	3	2	1		
	28	共同作業	共同作業ができる					4	3	2	1		
	29	危険への対処	危険と教えられたことをせず、自身の安全を考えて行動する					4	3	2	1		
合計											0		

ポルト実績報告

- **見学者数 8名（男性2名・女性6名）**
紹介先、他院（精神科）6名、近森1名、支援センター1名。他院は異なった病院（相談室）からの紹介。障害種別はすべて精神障害となっている。
- **体験利用者数 5名（男性2名・女性3名）**
本人、グループホーム共にマッチングを見極める目的で空室を利用して5名が数回体験を行う。利用目的が明確でポルト入所者との関係がとれていたケース3名は入所に繋がったが、ポルトでの共同生活や高知市での生活に馴染めなかった方は利用申請に至らなかった。
- **入所者数 1名（男性）**
男女共に昨年より空室数が少なくなっているため入所者数も減っている。土佐HPからの紹介で男性1名入所となっている。
- **退所者数 3名（女性3名）**
退所先は支援継続が必要かつ本人の希望により他グループホームに1名入所。精神症状悪化により長期入院になり退所に至ったケースが2名。
- **定員 12名に対する年間実績（稼働率 92%）**

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
人数	11	11	11	12	12	11	11	11	11	11	11	10

- **利用者平均年齢 45歳（H25年3月末現在）**
現在、65歳以上の利用者数はいない。
- **平均利用日数 440日**
ポルト開設から3年が経過。この3年間で22名が入所し11名が退所となっている。退所先は終の棲家としてのグループホーム4名、アパート単身生活4名、病院2名、自宅1名となっている。本来の目標通りの自立した生活に移行できたケースもあるが、支援を通じて継続した支援が必要とのアセスメントに至り本人もグループホームの利用継続を希望しているケースも多かった。病院入院のための退所の2名以外は本人の希望に副った場所であるか、本人の生活しやすい場所への退所であり通過型のグループホームの機能は果たしてきたと考える。今後も利用者の方が家族や友人との繋がりや趣味を楽しみながら自立に向かって頑張っていけるグループホームでありたいと思う。

平成 24 年度 高知ハビリテーリングセンター事業報告

総評 24 年度の新たな取り組みとしては、4 月 16 日より市街地に就労移行支援事業所のサテライトとして「アルバーテ北本町」を開所、同敷地内には社会福祉法人の収益事業として認可されている駐車場運営を開始しました。そして、就労移行利用者にとっての訓練的要素とするために、駐車場の運営管理については業者委託を行い、そちらで企業実習を行うという形をとりました。また、洗車スペースを整備しており、12 月からは近森会グループの公用車の洗車を開始し、訓練として洗車を実施した利用者には収入から生産活動費として配当しました。

各事業の稼働率につきましては、自立訓練、就労移行、B 型事業は 90%稼働が達成できましたが、施設入所支援の利用者数は、新体系移行後では過去最低の数値となりました。各事業の利用登録者数も伸び悩む状況でした。(参考資料 1) 例年、下半期は利用者減が著しくなる傾向はありますが、これらの分析も踏まえ、安定した利用者確保に努力を要します。

平成 20 年 4 月 1 日に障害者の社会復帰および就労を目指した通過型の訓練施設として運営を開始し、5 ヶ年が経過しました。5 年間で 1 区切りと考えるとすれば、この 5 年間で「開拓期」と称します。職員は、障害者支援の未経験者ばかりではありませんでしたが、近森会グループからの職員を主として総勢 25 名で県立時代の利用者支援を引き継ぎました。同時に、本館、はるのハビリホームの建設、中庭等の外溝工事を施しながら、その都度の利用者説明を行い、特に、30 年近く施設暮らしをして来られた利用者が「はるのハビリホーム」での生活を開始するにあたっては、生活のイメージを描くための勉強会や生活訓練的な時間を設定し、生活の準備や不安解消に努めました。平成 22 年 4 月 1 日からは障害者自立支援法に移行し、新たな事業体系で三障害の受け入れとなり、その後の 3 年間は、通過型の訓練施設と就労支援を行うにあたって、毎年いずれかの事業拡大や新規事業の開設をして参りました。その結果、現在では、高知県内では他にない多機能型の事業所となっています。当センターの事業を支えていただいております多くの方々に感謝の意は堪えません。また、理事、評議員の方々には、激動の 5 年間の運営に対しまして常に力強い激励のお言葉、ご支援をいただきました。「開拓期」を無事に乗り越えられましたのは、その賜物と受け止めています。

そして、平成 25 年 4 月 1 日より、「障害者自立支援法」は「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(障害者総合支援法)」として施行され、今後 3 年間は障害者施策も段階的に様々な見直しが行われていきます。それらの情勢を見ながら、職員一丸となって当センターに課せられた役割と機能を発揮していく所存です。

参考資料 1 <平成 24 年度利用登録者数>

	事業名	4月	5月	新定員	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
日中支援	機能訓練	33	37	28	36	36	34	32	27	28	23	25	25	23	
	生活訓練	7	8	6	7	7	9	9	9	9	8	8	8	8	
	生活介護	7	7	6	6	6	6	6	5	5	4	3	2	5	
	就労移行	14	15	20	14	13	12	11	13	13	13	13	12	12	12
	就労継続B型	53	52	40	56	56	57	57	57	57	57	59	60	63	59
夜間支援	施設入所	36	39	40	36	37	39	38	32	33	24	27	25	29	
	ハビリホーム	32	32	36	32	32	33	32	33	33	33	31	31	28	

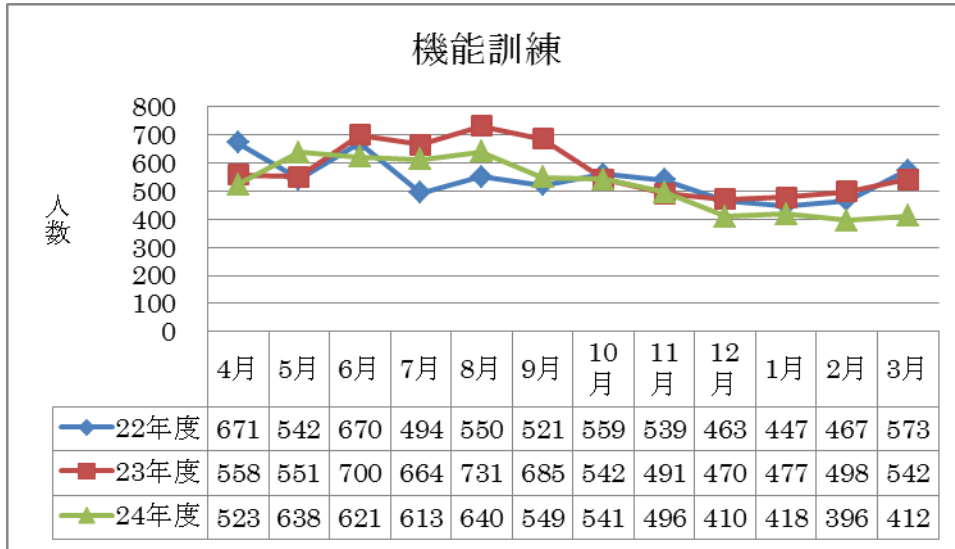
平成 24 年度 障害者支援施設高知ハビリテーリングセンター 自立訓練事業報告書

24 年度は、社会医療法人近森会からのOT 出向が終了となったため当センター配属での OT を採用、生活訓練利用者の増加に伴い、職員を加配したことで毎週土曜日の開所が可能となり、訓練内容の充実が図れるようになってきました。また、24 年度の機能訓練利用者の平均障害程度区分は 3.3、生活訓練利用者の平均障害程度区分は 3.5 でした。

1. 利用者数の推移

①機能訓練事業(身体・1.5 年)の延べ利用者数

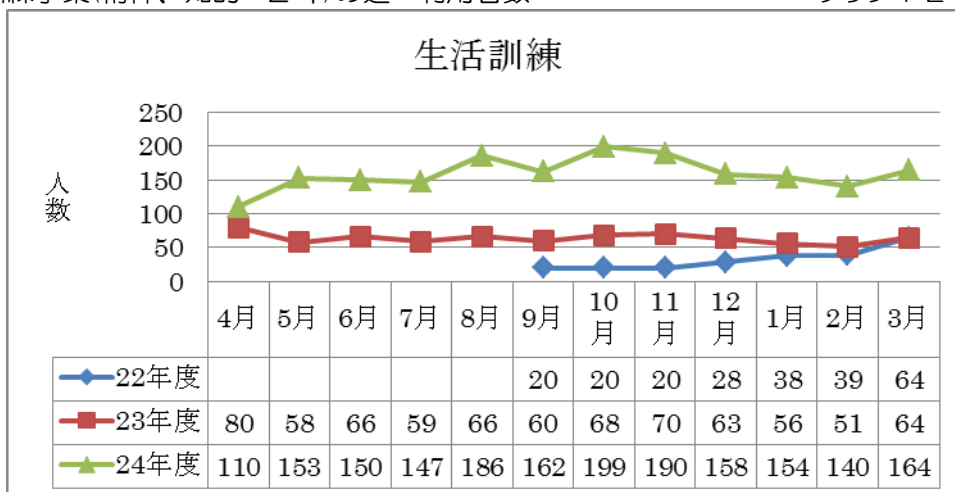
グラフ 1-1



機能訓練事業につきましては、県内唯一の事業所であるにも関わらず想定以上に利用者は伸びない状況です。(グラフ 1-1)これは、高知県だけの傾向ではなく、他県においてもこの事業を終了する事業所が出ています。しかし、医療においては回復期病院における入院日数が制限されている現在、機能訓練事業が重要視されるべきであると考え、利用者確保の弊害を追及している県もあります。若年であっても介護保険対象疾患であれば介護保険優先の原理のもと、在宅サービスの調整がなされている状況が推察されます。社会復帰や社会参加を考え、介護保険との併用が許される機能訓練事業を活用していただくよう、当センターとしては当センターの活用法や利用続きについてより一層の啓発に努めていかなくてはならないと痛感しています。

②生活訓練事業(精神、知的・2 年)の延べ利用者数

グラフ 1-2



23年度は想定以上に利用者が伸びませんでした。24年度については定員150%を超える利用者の調整をしつつ訓練を実施し、後半には利用待機者が出ました。利用者は、年々増加傾向にあります。(グラフ1-2)これまではサービスを受けられなかった身体障害のない高次脳機能障害の方に対する社会生活訓練の場、養護学校・特別支援学校卒業生に対しての専攻科機能を果たす事業として認知されてきたものと受け止めます。

2.利用者の状況

①新規利用者紹介元

機能訓練 17名(うち自宅からの通所 4名)

生活訓練 7名(うち自宅からの通所 1名)

表1-1

利用前居所	機能訓練	生活訓練
病院(入院)	14	2
自宅(市町村役所)	3	3
養護学校		1
合計	17	6

②利用修了者

機能訓練 24名(うち自宅からの通所 8名)

生活訓練 3名

③入所+機能訓練終了者、入所+生活訓練修了者の復帰先

表1-2

退所先	機能訓練	生活訓練
自宅及びアパート	5	
GH・CH	3	1
老人介護施設	2	
障害者支援施設(生活介護)	1	1
ハビリ入所支援(生活介護)	2	
病院	3	
その他		1
合計	16	3

④退所後の日中サービス利用状況

表1-3

事業名	人数
就労継続B型(ハビリ)	5
就労移行(ハビリ)	4
他事業所デイサービス等	2
合計	11

3.文化・芸術活動、スポーツ活動等

表 1-4

行事名	開催日時	参加者数	
障害者運転免許教室	6月27日, 11月7日	3名	
頭脳スポーツ大会	7月29日	8名	将棋、オセロ
スピリットアート展	10月5～14日	全員	作品出展
春野町文化祭	11月2～4日	全員	作品出展
ポッチャ大会	11月23日	13名	龍馬杯
駅伝大会	1月27日	3名	
卓球バレー大会	2月24日	15名	

4.在宅調整

家屋環境調整のための家庭訪問……11名(B型、移行利用者を含む)

在宅復帰前地域カンファレンス……14件

5.訓練内容

表 1-5

科目	訓練内容
PT	<p>最大限の機能能力Upを図り、また、動作方法の検討や指導、車いす・補装具などの利用、環境調整を行い、自身の残存能力を最大限に発揮できるスキルを獲得。退所後の生活に向け、能力の維持向上、体調管理などの自己メンテナンスが行えることを目的とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩行、階段昇降訓練 ・筋力強化訓練 ・バランス訓練 ・応用動作訓練 ・関節可動域訓練、ストレッチ ・物理療法 ・障害者スポーツ模擬的訓練 ・自主トレ指導、課題指導 ・機能能力評価、動作チェック ・ADL評価、環境調整 ・車いす等物品修理、管理 ・装具・車いす物品修理、作製、申請 ・自助具作製
OT	<p>主に高次脳機能障害や手指巧緻性、更衣やトイレの模擬的な訓練、家事動作等の生活関連動作を中心に訓練を行い、生活に必要な自己管理能力の向上、日常生活関連動作の向上、センターでの生活や在宅や転帰先の施設に行っても趣味的な活動を継続できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高次脳機能訓練 ・手指巧緻性訓練 ・応用歩行訓練 ・調理動作訓練 ・家事動作訓練 ・和室内動作訓練 ・日常生活動作訓練 ・アクティビティー ・復職向けの作業活動 ・自助具作製
パソコン	<p>パソコンの基本操作から就労に向けてのビジネスソフト操作、また趣味や余暇等生活場面での使用を目的としたパソコン技術の獲得を目指した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本操作：電源入切からマウス操作、入力練習を実施 ・ビジネスソフト：Word・Excel・インターネット操作の習得 ・その他：希望に応じて資格取得や応用ソフトでの練習を実施
趣味・健康	<p>生活習慣病の予防や身体組成の改善、呼吸循環機能をはじめとする身体諸機能の維持向上のため行う。個人の目標を作り、取り組みの中で利用者自身の健康</p>

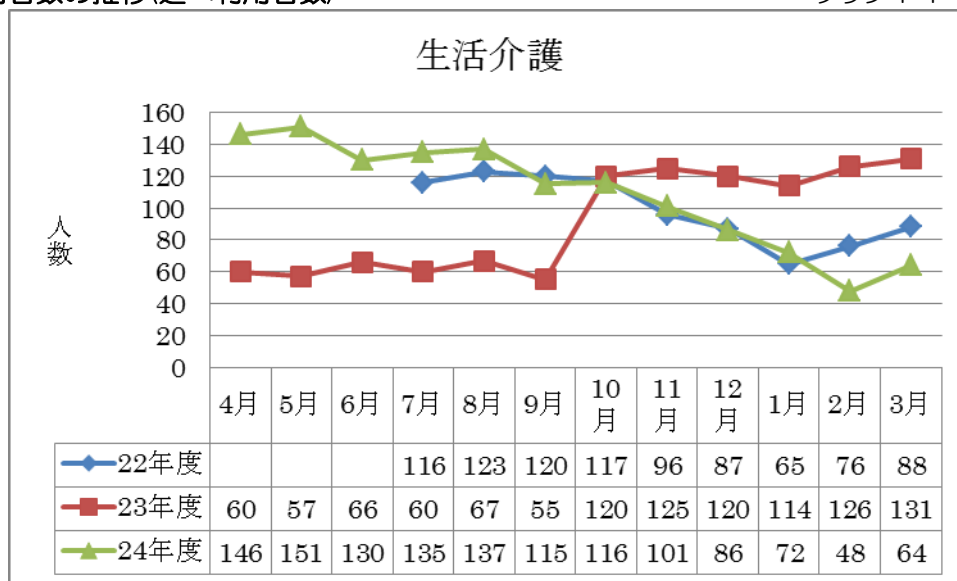
	<p>意識を高め、生活機能の低下防止、維持増進を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己ストレッチ ・エアロビクス ・筋トレ（ペットボトル使用） ・レクリエーションスポーツ ・エクササイズ（ジムニックボール・ストレッチポール等使用） ・体力測定 ・アロマセラピー
コミュニケーション	<p>失語症利用者に対して、テキスト形式やグループワークを通して、コミュニケーションスキルの向上を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト課題 ・書字 ・計算 ・意思伝達代償手段訓練 ・グループ訓練
医務	<p>看護師が健康面への指導を行い、体調の自己管理やセルフケア等が自身で行えるように働きかけた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身の病状、内服薬説明 ・血圧等バイタルチェック（自己管理へつなげる） ・身体測定（体重管理等含） ・セルフケアチェック
栄養士	<p>施設内の食事摂取や栄養管理、食事形態の検討だけでなく、転帰先に合わせての栄養についてやカロリーについての助言、実際に調理を行いながらメニューや献立を立てる練習などを行い、健康管理能力向上に働きかけた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養指導 ・メニュー、献立作り、調理指導 ・買い物や外食での注意点等の指導 ・健康管理 ・食形態の管理
生活の時間	<p>生活の場である寮にて掃除や自室の整理整頓、物品管理、ゴミ出し、生活リズムの獲得等の自己管理能力の能力向上を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自室掃除、整理整頓 ・洗濯 ・更衣、入浴訓練 ・移動スーパー利用 ・間食や飲水チェック及び指導 ・排泄訓練 ・時間管理能力、生活リズムチェック及び指導・管理
体力トレーニング	<p>障害者スポーツセンター職員より指導を受け、スポーツを通して、自身で体力や活動性の向上を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストレッチ（ジムニックボール等） ・障害者スポーツ（ボッチャ・ペタンク・バドミントン・ビームライフル・バランスボールサッカー・フライングディスク等）
グループ訓練	<p>各利用者を転帰先別にグループに分け、そのグループでの訓練を通して、それぞれの目標達成へ向けて支援を行った。</p> <p>グループ分け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅 ・就労 ・健康管理 ・認知、記憶
自習	<p>自分自身で決められた時間をどのように生活するのか選択し、自分で決めた内容に沿って時間を過ごす</p>

平成 24 年度 障害者支援施設高知ハビリテーリングセンター
生活介護事業報告書

生活介護事業は、自立訓練終了後の施設待機者や在宅の環境調整中の利用者を対象とした日中活動の場として平成 22 年 7 月 1 日に開始した事業です。(外部からの新規利用者の受け入れはしていない)
生活支援部スタッフが日中活動を提供していますが、自立訓練同様に能力低下がおこらぬよう運動や体カトレーニングを取り入れています。

1.利用者数の推移(延べ利用者数)

グラフ 1-1



生活介護事業利用者は、在宅復帰は困難であり、老人介護施設や障害者支援施設の申請をしています。高知県下は両施設とも待機者がいる状況ですが、入所連絡があれば利用終了となっていきます。24年度につきましては、順次施設への入所が決まり、対象者がいないことから利用者数が減少しました。

2.活動内容

表 1-1

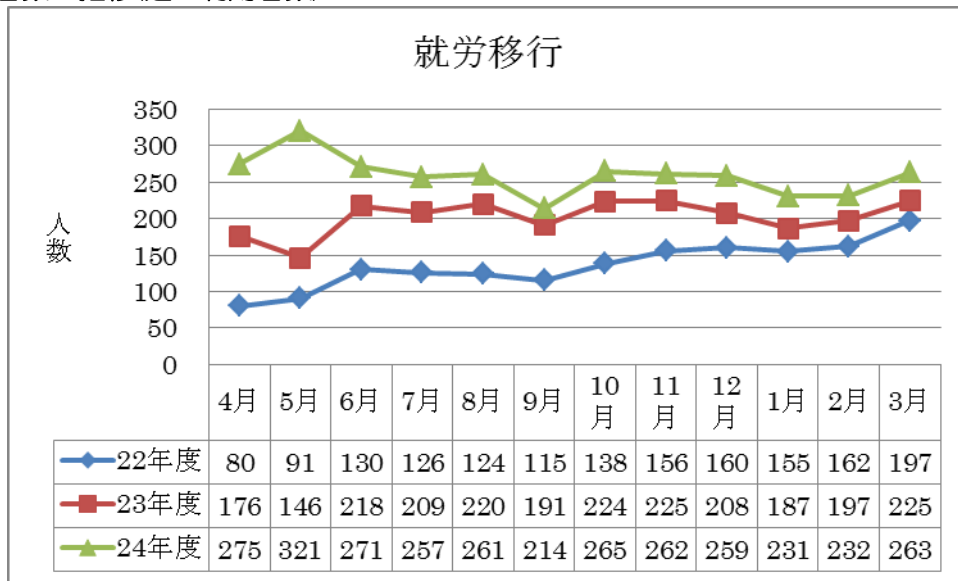
科目	内容
整容	身なりを整えることを怠らない習慣をつけていく。 (更衣、ひげそり等)
運動	体力維持や能力低下を防ぐために適度に身体を動かす。 (立位訓練、車椅子駆動、ハビリ体操等)
体カトレーニング	スポーツセンター指導員によるトレーニングを行う。
学習	頭の体操や認知症予防のために座学として行う。 (計算、書字、ぬり絵等)
手芸	手指の動きが衰えないように楽しみも兼ねて行う。
ゲーム	視覚的刺激や敏捷性等も鍛えられ楽しみながら頭脳の活性化を図る。 (DS、トランプ等)
ドライブ(散歩)	季節感を味わう場所への外出訓練を行う。
DVD鑑賞	楽しみの時間。

平成 24 年度 高知ハビリテーリングセンター就労支援事業所
就労移行支援事業報告書

就労移行支援事業は、利用者の個別課題となっている事に重点を置き、一般就労を目指してトレーニングを行っています。平成 24 年 4 月 16 日には、サテライトとして「アルベア北本町」を開所しました。市街地という立地条件を有効利用していくことを考え、社会福祉事業で認可される収益事業である駐車場運営を開始し、就労移行利用者の訓練プログラムとして日中は発券や管理業務を取り入れました。また、洗車設備も整えていたもので平成 24 年 12 月 1 日より近森会グループ内の公用車の洗車を行い、実施した利用者に生産活動手当の支給を開始しました。

1.利用者数の推移(延べ利用者数)

グラフ 1-1



サテライトを開所すると同時に、利用定員を 10 名から 20 名としました。この事業につきましては、利用者数は増加傾向にあります。(グラフ 1-1) 日常の訓練に利用者の出席率が高いことや、土曜日開所(OB 会を含む)を行っていることから延べ利用者数が多いと思われる。しかし、就労定着の困難さを痛感する一年(表 1-3)でもあり、課題分析を行い、訓練内容や支援方法の見直しが必要です。

2.利用者の状況

①利用者 13 名の概要

表 1-1

1.入所先別

特別支援学校		1
ハビリ	B 型	3
	自立訓練	3
企業		1
自宅		5

2.障害種別

身体障害	8
知的障害	1
精神障害(高次脳含む)	4
広汎性発達障害	

3.年齢別

10代	1
20代	2
30代	5
40代	4
50代	1
60代	

4.利用形態別

通所	自宅	9
	ハビリホーム	3
入所		1

②終了者の状況

表 1-2

終了日	就職先	種別	利用期間	
平成24年5月28日	虹の里	A型事業所	1年11ヶ月	A
平成24年5月31日	(ハビリ 就労継続支援B型)		1年	B
平成24年7月 1日	グラツェミーレ	一般就労	2年 1ヶ月	C
平成24年8月13日	虹の里	A型事業所	1年11ヶ月	D
平成24年8月15日	株式会社 寿工務店	一般就労(在宅)	1年 2ヶ月	E
平成24年8月31日	土佐中村郵便局	一般就労	1年11ヶ月	F
平成24年12月17日	近森病院(北館)	一般就労	4ヶ月	G
平成24年12月28日	(ハビリ 就労継続支援B型)		2年 1ヶ月	H

③退職状況

表 1-3

利用者(年齢)	就労期間	退職理由
Aさん(35歳)	5/28~10/10	死去
Dさん(50歳)	8/16~9/30	職員との不和

3.訓練内容

表 1-4

施設内訓練	
作業	耐久性や巧緻性、集中力を身に付け、向上させる事を目的に様々な作業や基礎的学力向上をめざした学習を実施、また、金曜市商品の開発や製作を実施 8月26日 夏祭り出店
座学	履歴書の書き方や電話対応、名刺の渡し方等、社会人として必要となるマナーを身に付けるとともに模擬面接を実施し、就職活動に必要な技能の習得を目指した。 金銭管理を行う為のお小遣い帳の導入や一人暮らしをしていく為に必要な生活経費等について学ぶ時間を取り入れた。
パソコン	実務能力として必要不可欠な入力スピード・正確性の習得を中心に、Word・Excelを使用した実務課題、土木事業における事業設計書作成ソフトの操作練習を実施。毎月の移行通信や金曜市に必要なチラシやポップの作成を行った。 8月25日 アビリンピック高知大会へ参加(ワードBコース金賞受賞者1名)

講演会	関係機関から就労についての講演をして頂いた。
施設内実習	四国管財様にご協力頂き、実習前訓練として清掃業務。
施設外訓練	
職場実習	具体的な就労イメージを付けるとともに、適応職種・職場を見つける事を目的に実施。主な実習先：販売業、製造業、介護業、清掃業、調理等
外出訓練	職場見学やハローワーク訪問等、就職活動に繋がる外出に加え、野外活動として金曜市への参加等を実施、また、公共交通機関練習や ATM 利用練習等、地域生活における様々な能力の獲得を目的に個別に必要な支援を実施した。 9月19日 障害者雇用合同面接会 参加
駐車場実習 (アルバーテ北本町)	平成24年4月16日より、四国管財様に業務委託して駐車場管理の施設外実習を開始。さらに12月より洗車の営業を開始、生産活動費として利用者に均等配分する。
トライアル雇用	トライアル雇用(1名) 平成24年 4月1日～ 6月30日 調理補助
委託訓練事業	委託訓練事業(2名) 平成24年 8月1日～10月31日 調理補助 平成24年 11月5日～平成25年 2月8日 営業

4.企業実習状況

①実習先

実習先一覧(順不同)

表 1-5

	22年度		23年度		24年度
1	JA 春野	1	サンリバー四万十	1	アルバーテ北本町
2	サニーマート	2	マルナカー条店	2	(株)フォーティーエス
3	四国管財	3	ユニクロ四万十店	3	サンシャインベルティス
4	フタガミ	4	トヨタ四万十店	4	業務用スーパー一宮店
5	四国ライフケア虹の里	5	新ロイヤル四万十	5	(有)西村謄写堂
6	マル二朝倉店	6	シュープラザ四万十店	6	ワープ園芸文化舎
7	せるぼ(A型事業所)	7	フジ四万十店	7	よさこいねっと
8	青柳	8	グラッツェミーレ	8	平成福祉専門学校
9	きらり	9	南国病院	9	タムビシ 初リユーション
10	コーケン(A型事業所)	10	細木病院	10	(有)池沢農機商会
11	まるなか土佐店	11	寿工務店	11	高南メディカル
12	かがみの			12	近森病院北館(医師食堂)
13	ダックス(特例子会社)				
14	ヤマサキ				
15	フジグラン				
16	イオン高知				
17	ワークスみらい(A型事業所)				
18	サンプラザ				
19	キタムラ				
20	森光石油				
21	ユニクロ土佐道路				
22	近森病院				

②実習状況

表 1-6

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実習回数	6	11	8	11	9	4	4	9	8	10	12	18
実習者数	6	10	8	10	8	4	4	9	8	8	9	9
実習企業数	5	5	5	5	6	4	4	5	3	4	5	8
実習延べ日数	40	51	62	57	41	66	79	76	52	43	72	83

③外出訓練

表 1-7

外出先	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
職場見学 (全体)					1	1				1		
職場見学 (個別)				3			1	1	2	1		
パン販売 (県庁)												2
ハローワーク	4	4	4	5	4	4	6	9	9	9	8	7
屋外訓練 (金曜日)	4	3	5	4	3	4	4	4	3	3	4	
公共交通 機関練習	2											
外部座学												1

④その他の個別支援

表 1-8

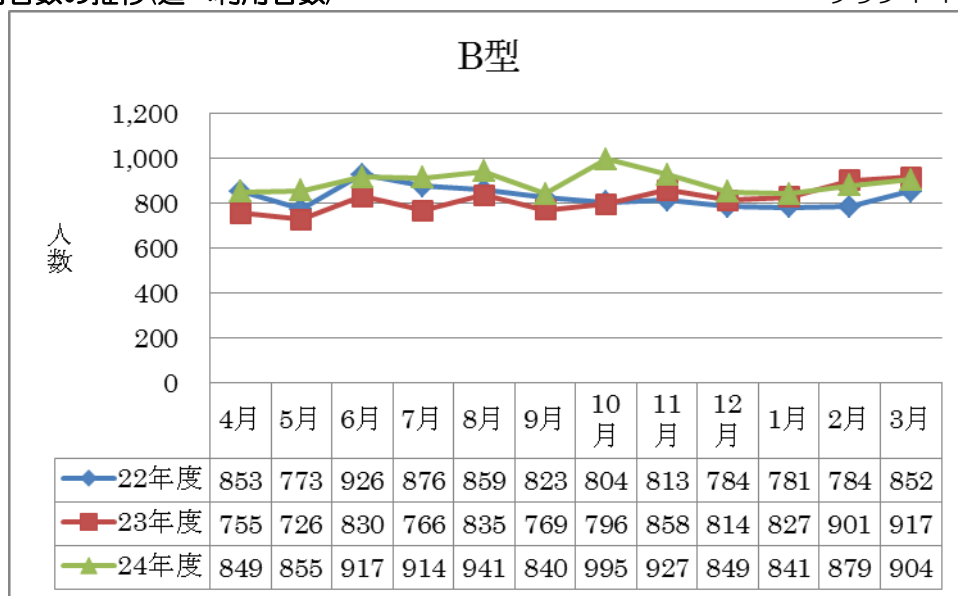
外出先	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
採用面接					1	7		2			1	1
職業適性評価												1
ﾌﾞｯｸ-ﾌｵｰ-	4	4	6	7	9	6	4	5	3	3	5	3

平成 24 年度 高知ハビリテーリングセンター就労支援事業所
就労継続支援 B 型事業報告書

就労継続支援 B 型事業は、利用者個々の障害特性に見合った作業の工夫や作業工程の改善をしつつ、能力に応じた技能の習得を支援すると共に、福祉的就労として工賃を支給し自立意識の高揚と社会復帰意欲の増進を図っています。工賃向上計画にも前向きに取り組んでいますが、職員は取引先や販売先の確保に更に努めました。その一環として、軽作業科の箱製作作業につきましては、有名な業者から受注する準備として作業環境を更に衛生的なものにするため、6 月には別館作業場の一室を整備しました。また、車椅子利用者から最も人気がある印刷科については、パーティションを調整して室の拡大を図りました。

1.利用者数の推移(延べ利用者数)

グラフ 1-1



B 型の利用登録者数は増加傾向にあり(参考資料 1)、それまでの定員数 30 名を超過した段階では、土日の開所や利用日の調整を行っていました。したがって 6 月に就労移行の定員数を 20 名とする際、B 型の定員数を 40 名に変更しました。送迎があることや作業科目が多いこと、そしてバリアフリーの環境にあることが利用者の増加理由であると考えられます。登録者は多いのですが、延べ利用者数に変動があるのは、数名の利用者が入退院や自宅療養による欠席があるためだと思われます。(グラフ 1-1)

2.利用者状況

①新規利用者の開始前居所 表 1-1

前居所	人数
病院	2
他施設	1
学校	1
自宅	8
ハビリ	6
合計	18

性別・学年	学校名・期間・その他	
(男) 3年生	日高養護学校 5/21 (月) ~6/1 (金) 実習	×
(女) 3年生	日高養護学校 5/21 (月) ~6/1 (金) 実習	○
(女) 3年生	日高養護学校 10/15 (月) ~10/26 (金) 実習	○
(男) 3年生	山田養護学校 5/21 (月) ~6/1 (金) 実習	○
(男) 3年生	若草養護学校 6/4 (月) ~6/15 (金) 実習	○
(女) 3年生	若草養護学校 6/4 (月) ~6/8 (金) 実習	×
(男) 2年生	若草養護学校 6/4 (月) ~6/8 (金) 実習	
(男) 2年生	若草養護学校 6/4 (月) ~6/8 (金) 実習	
(男) 3年生	若草養護学校 6/11 (月) ~6/15 (金) 実習	×
(女) 2年生	若草養護学校 6/11 (月) ~6/15 (金) 実習	
(男) 3年生	若草養護学校 11/19 (月) ~11/22(木) 実習	○
(男) 2年生	高知市立養護学校 11/12 (月) ~11/22 (木) 実習	
(女) 中学部	高知県立盲学校中学部 3年生 9/14 (金) 実習。	
(女) 中学部	高知県立聾学校中学部 3年生 2/21 (木) 2/22 (金) 終日実習	
(女) 中学部	高知県立聾学校中学部 3年生 2/21 (木) 2/22 (金) 終日実習	

(○印は当センター利用となった方)

3.生産活動

表 1-3

作業科目	作業内容
農芸科	畑作業（土作り、草引き、種まき、野菜の洗い、出荷準備、配達）
印刷科	封筒印刷、名刺、広報誌、ハガキ、処方箋等の印刷仕上げまでの作業工程の中で ①制作部…入力、データ作業、画像補正、校正 ②仕上げ…紙折り、検品
軽作業科	脂取り紙の加工作業、DM袋入れ作業、封筒三つ折り作業 箱製作(手織り)
リサイクル科	缶回収、選別、プルタブ外し、洗い、アルミ缶潰し作業
クリーニング科	病院スタッフユニフォーム洗濯、シーツ類洗濯、利用者私物洗濯
パン工房科	パンの製造、販売

4.取引先リスト（個人取引除く）

表 1-4

科名	業者名
農芸科	・エームサービス(株) ・近森産業 ・社会医療法人近森会 ・(株)グッドワン ・(株)日清医療食品 ・高南メディカル ・はるの若菜荘 ・たていし(弁当屋)
印刷科	・永井病院・県立障害者スポーツセンター ・日本珊瑚協会 ・宝樹 ・聖園ベビーホーム ・川上装飾 ・円受寺 ・高知県(障害保健福祉課) ・はるの森澤クリニック ・青い空 ・ティー・エス・エー企画 ・和田書房 ・あじさい園 ・聖園天使園 ・西内珊瑚 ・市原珊瑚 ・木内工芸 ・(有)タカハシ ・はるの若菜荘 ・前川珊瑚工房 ・ふたばクリニック ・若草養護学校 ・高知県珊瑚協会 ・高知県作業療法士会 ・ヘルパーステーション えのくち ・(株)エヌ・シー・ビー ・高知高齢、障害者雇用支援センター ・さぼーとぴあ ・社会医療法人近森会
軽作業科 (本館) (箱製作)	・富士紙化学(株) ・(株)エヌ・シー・ビー ・こうち生活協同組合 ・高知県社会就労センター協議会(山本貴金属、レオパレス21) ・桂 ・福辰 ・吉永 ・土佐蒲鉾 ・高知大丸 ・(株)満天の星

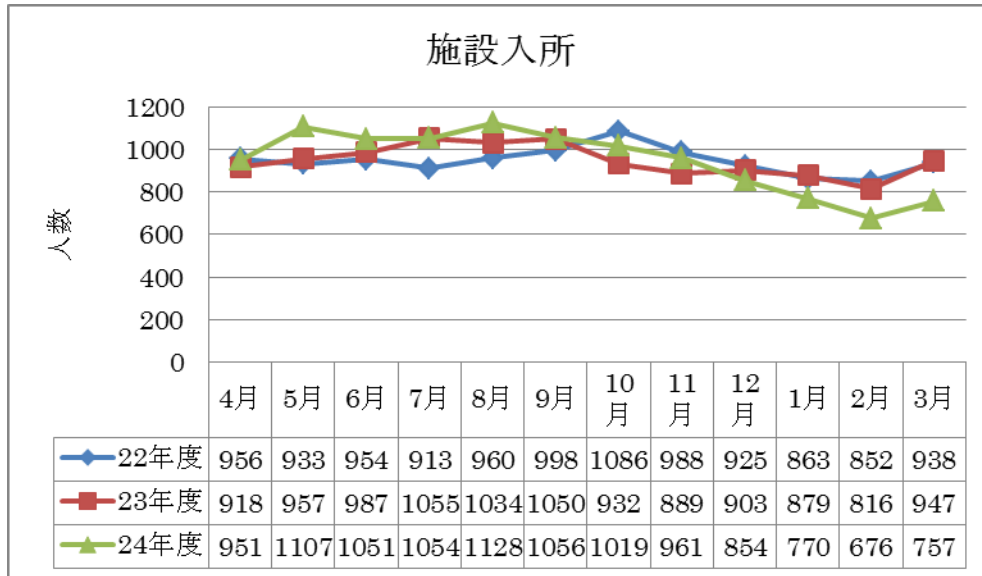
	<ul style="list-style-type: none"> ・(株)サヌキ印刷 ・池一菜果園 ・(株)浜幸
リサイクル科	<ul style="list-style-type: none"> ・土居商店 (回収先→瀬戸サンシャイン、きらら、かつお船、福井ファミリーマート、珊瑚センター、高知競馬場、高知競輪場、秋月酒店、その他)
クリーニング科	<ul style="list-style-type: none"> ・社会医療法人近森会、県立障害者スポーツセンター
パン工房科	<ul style="list-style-type: none"> ・誠和園 ・聖園天使園 ・永井病院 ・三愛病院 ・社会医療法人近森会 ・ウェーブ ・ハビリ ・はるのハビリホーム ・高知県庁 ・平成福祉専門学校 ・高知県立療育福祉センター

平成 24 年度 障害者支援施設 高知ハビリテーリングセンター
施設入所支援事業報告書

施設入所支援事業は、自立訓練、就労移行、生活介護利用者で在宅生活が困難な利用者の夜間支援として日常生活の支援を行う入所施設です。(日中支援の期限が入所期限とされている)

1.利用者数の推移(延べ利用者数)

グラフ 1-1



例年 11 月頃からは下降していきませんが、12 月からは新体系に移行して以来、過去最低の利用者数値となってしまいました。(グラフ 1-1)利用者のサービス受給期間が限定されているため、それに応じて計画的に支援を進めていきますが、出入りのコントロールが必要となります。5 月頃の数値に巻き返すにはかなりの努力を要しますが、各方面に対して再度 PR を施し、回復期病院との連携を強化していきたいと考えます。また、介護保険で在宅復帰している若年の方と繋がるのであれば、在宅部門のスタッフへの啓発も欠かせません。初心に戻り、営業に臨む必要があります。

2.利用者状況

新規入所利用者 21 名の日中支援の内訳

退所者 29 名の復帰先の内訳

事業名	人数
機能訓練	14
生活訓練	6
就労移行	1

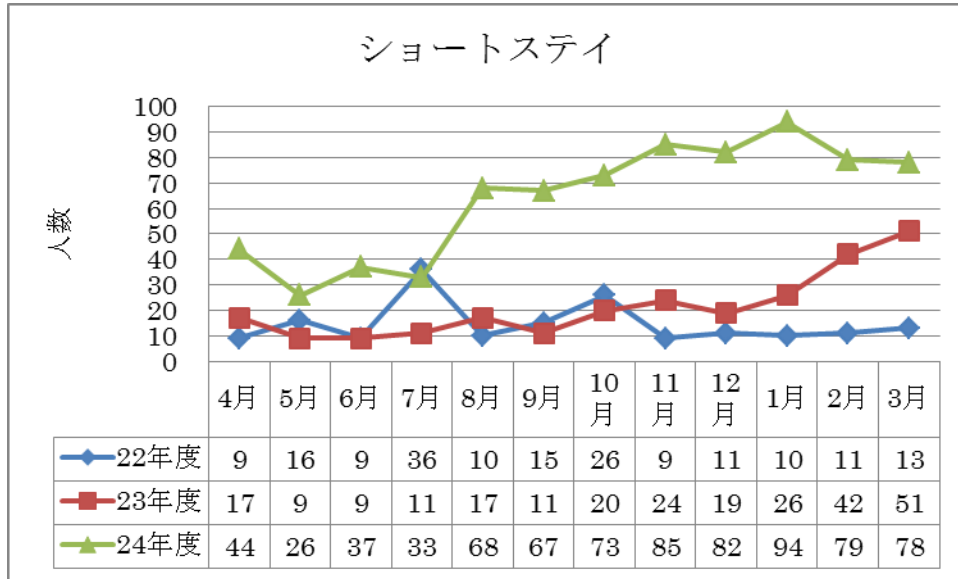
復帰先	人数
自宅及びアパート	8
老人介護施設	10
障害者支援施設	4
病院	3
ハビリホーム	3
その他	1

平成 24 年度 障害者支援施設 高知ハビリテーリングセンター
短期入所支援(空床型・併設型)事業報告書

短期入所支援事業は、施設入所の空床を利用しレスパイト目的や家族の緊急時に受け入れることで在宅生活の支援を行うものです。短期入所中に当センターの日中支援に行くことは可能ですし、利用者に応じた方法で活用されるようになり、毎月の定期利用者が増えてきました。

1.利用者数の推移(延べ利用者数)

グラフ 1-1



24 年度 8 月からは、利用者が一気に増えました。(グラフ 1-1)以後、登録利用者は増え続けています。また、緊急時の受け入れ依頼もありますが、ベッドが空いているタイミングでしたので対応ができました。虐待や家族の急病等、ショートステイは在宅支援に欠かすことはできない事業であると実感します。

これまでは、最年少で 17 歳からの受け入れをしていましたが、年齢で限定せず状態によって判断し、中学生からの受け入れをしました。

2.利用者状況

利用登録者数 表 1-1

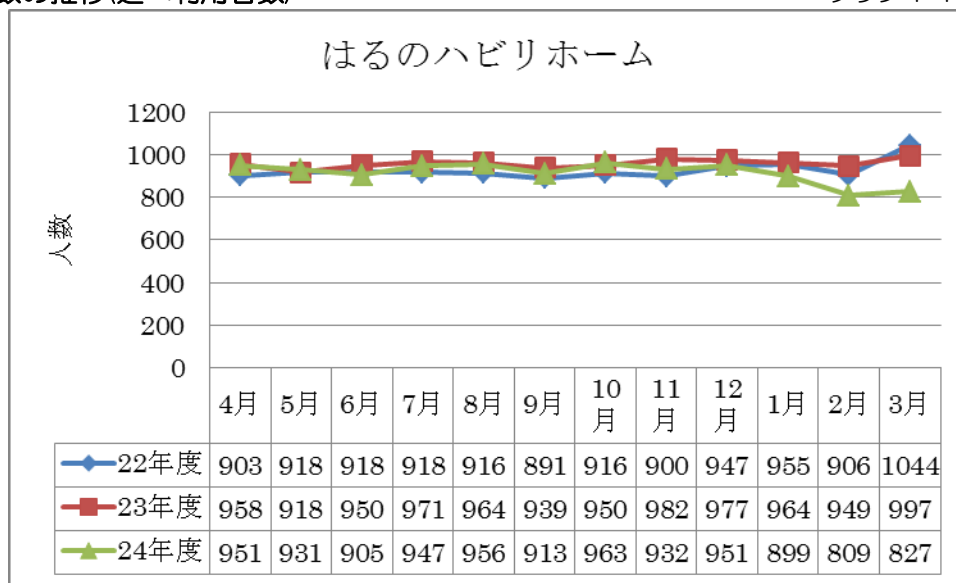
年度	登録者数
平成 22 年度	7
平成 23 年度	15
平成 24 年度	30
合計	52

**平成 24 年度 はるのハビリホーム
共同生活援助(GH)・共同生活介護(CH)事業報告書**

共同生活援助・共同生活介護事業は、1 ユニット 6 名定員で 6 ユニット、3 タイプの部屋があり、利用者の求める生活スタイルにより近い部屋を選び更に地域移行を目指した訓練的要素を持つ住まいの場です。また、入居の年齢制限を 65 歳としており、新規利用者も受け入れができるように通過型の GH・CH であることも特長です。

1.利用者数の推移(延べ利用者数)

グラフ 1-1



はるのハビリホーム入居者は、就労移行、B 型利用者が週のうち 3 日は通所できる健康状態を目安としており、1 名の宿直体制です。したがって、再発や疾病によってレベルダウンし全介助状態に近くなれば、夜勤体制で巡回がある環境がよいと判断し、はるのハビリホームから施設入所へと異動しています。24 年度 3 月には、3 名の利用者が施設入所支援へ異動しました。

2.利用者状況

①新規利用者の入居前居所 表 1-1

入所前居所	人数
病院	
自宅	1
学校	
施設入所(ハビリ)	2
他施設	1
合計	4

②退所先 表 1-2

退去先	人数
病院	
自宅、アパート	5
老人介護施設	2
施設入所(ハビリ)	3
合計	10

平成 24 年度 高次脳機能障害支援拠点 高次脳機能障害相談支援センター 事業報告

総評

24 年度の新たな取組みとして、次の二点をあげます。①アンケート調査の実施、②高知心理療法研究所との委託契約(1/w 臨床心理士の派遣)です。①につきましては、高知県が 5 年前に実態調査を行っており、その結果との比較をする目的もあったため県と共同で行うことになりました。そして、支援委員会から委員を選抜してワーキンググループを作り、念入りな打ち合わせ後の実施となりました。②につきましては、当センターには臨床心理士を配属していないため、心理検査やソーシャルワーカーとは違う医療相談を受ける窓口とするために高知心理療法研究所と委託契約を結び、月に 3~4 回来所していただきました。しかし、臨床心理士が相談窓口にいることの広報がいきわたっておらず、来所時に相談がある、もしくは来所時に合わせて相談時間を設定しておくような内容はなく、委託初年度となった 24 年度については、当センターの機能や高次脳機能障害支援の現状を知っていただきながら、センター内の利用者とのカウンセリングや面接等を行っていただきました。

各県に高次脳機能障害の支援拠点を一ヶ所は設置することになりましたが、社会福祉法人が受託している県は極めて少なく、支援コーディネーターの職種にも違いがあります。病院の場合は、診断・治療・評価を主としていますので医者や臨床心理士、作業療法士が務めています。リハビリテーションセンターや社会福祉施設であれば社会福祉士が主となり、社会復帰等につながる支援としてのコーディネートをしています。高知県の場合は後者となりますが、24 年度には、各県の支援拠点の取組みや現状、課題についての発表大会があり、それに参加したことで高知県における当センターの支援拠点としての欠如している点が明確になりました。

これまでの 5 年間で、支援拠点のあり方、そして高知県における高次脳機能障害に対する支援課題が整理できました。それは、アンケート結果にも出ています。これまで、相談窓口としての啓発をしつつ受け身でしたが、今後は目に見える活動を具体的に展開していきたいと考えます。

1. 活動報告

表 1-1

4 月	平成 23 年度報告書作成
5 日	アンケート（高次脳機能障害者支援体制資源調査票）ワーキンググループ会議(2) （3 月 12 日アンケートワーキンググループ 1 回目）
11 日	高知県障害保健福祉課と高次脳機能障害者支援体制資源調査票打ち合わせ(2) （3 月 6 日県との打ち合わせ 1 回目）
17 日	アンケート（高次脳機能障害者支援体制資源調査票）ワーキンググループ会議(3)
5 月 22 日	高知県障害保健福祉課とアンケート（高次脳機能障害者支援体制資源調査票）打ち合わせ(3)
28 日	小高坂更生センター職員研修会での講演内容の打ち合わせ
6 月 2 日	高次脳機能障害者支援ワークショップ・イン四国（徳島）
15 日	平成 24 年度 高知市居宅介護支援事業所協議会
22 日	第一回 高次脳機能障害支援委員会 小高坂更生センター職員研修会 （講師として、高知ハビリテーリングセンターOT と支援コーディネーター派遣）
8 月 3 日	アンケート（高次脳機能障害者支援体制資源調査）ワーキンググループ(4)
9 月 21 日	アンケート調査について高知県障害保健福祉課の方と話し合い(4)
23 日	平成 24 年度 高次脳機能障害支援関係職員研修会（香川）
28 日	第二回 高次脳機能障害支援委員会
10 月 6 日	ナスバ交流会（高知ハビリテーリングセンター）2 名出席
11 月 3 日	平成 24 年度 高次脳機能障害支援拠点機関講習会（愛媛）3 名出席

3日	高次脳機能障害リハビリテーション講習会 2012 高知（宿毛市）
4日	高次脳機能障害リハビリテーション講習会 2012 高知（高知市）
6日	アンケート（高次脳機能障害者支援体制資源調査票）ワーキンググループ(5)
17日	徳島高次脳機能障害リハビリテーション講習会（徳島）
1月15日	アンケート（高次脳機能障害者支援体制資源調査票）ワーキンググループ(6)
20日	平成24年度高次脳機能障害研修会 「脳のリハビリ講習会」講師 中島 恵子先生
29日	第三回 高次脳機能障害支援委員会
2月21日	平成24年度 第二回支援コーディネーター全国会議（東京）
22日	平成24年度高次脳機能障害支援普及事業（東京） 第二回高次脳機能障害支援普及全国連絡協議会
3月14日	高知市居宅介護支援事業所北部Bブロック研修会 （講師として、高知ハビリテリングセンターOT と支援コーディネーター参加）

2. 相談実績

のべ相談件数

表 1-2

	面接	電話	合計
4月	0件	8件	8件
5月	1件	4件	5件
6月	1件	3件	4件
7月	0件	16件	16件
8月	1件	14件	15件
9月	1件	10件	11件
10月	0件	16件	16件
11月	1件	23件	24件
12月	0件	20件	20件
1月	1件	24件	25件
2月	0件	13件	13件
3月	0件	12件	12件

新規相談件数 表 1-3

4月	1件
5月	0件
6月	2件
7月	6件
8月	1件
9月	6件
10月	1件
11月	5件
12月	2件
1月	3件
2月	4件
3月	3件

これまでの相談に対してコーディネーターが対応した件数

表 1-4

	面接	電話	訪問	カンファレンス	合計
4月	0件	5件	0件	0件	5件
5月	1件	3件	0件	1件	5件
6月	0件	0件	0件	1件	1件
7月	0件	3件	0件	2件	5件
8月	0件	8件	0件	2件	10件
9月	0件	3件	0件	0件	3件
10月	0件	7件	0件	0件	7件
11月	1件	15件	0件	0件	16件
12月	0件	13件	1件	2件	16件
1月	0件	10件	1件	1件	12件
2月	0件	8件	0件	0件	8件
3月	0件	4件	0件	0件	0件
合計（年間）	2件	79件	2件	9件	88件

3. 研修会

「専門職向け研修会」活動報告

開催日時：平成 25 年 1 月 20 日（日）
 開催場所：近森病院管理棟 3 階 会議室 1・2
 研修会名：「脳のリハビリ講習会」
 講師：中島恵子氏(帝京平成大学大学院教授)
 時間：10：00～15：30
 参加者数：34 名

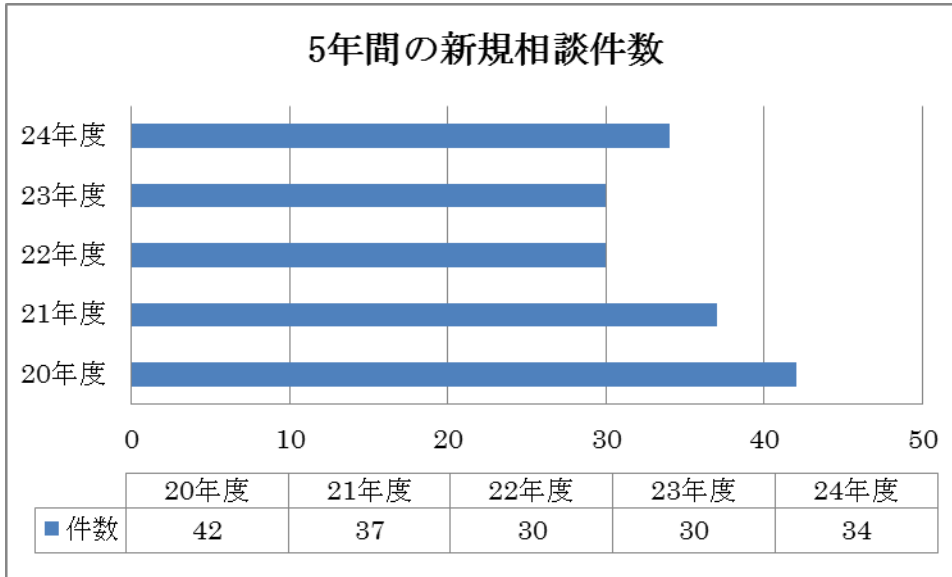
＜職種別参加者数＞

表 1-5

職 種	人数
相談員	8 名
作業療法士	6 名
理学療法士	4 名
心理士	1 名
職業カウンセラー	1 名
看護師	1 名
言語聴覚士	5 名
その他	8 名
合計	34 名

4. 5 年間の新規相談件数

表 1-6



この5年間の新規相談件数を比較してみました。毎年予想を下回る件数です。(表 1-6)当初は、相談窓口がないということでしたが、自立支援法になってからは、障害者手帳がなくても高次脳機能障害の認定があればサービスを受けられるようになりましたし、相談窓口となっている事業所は増えてはいます。しかし、相談先にたどり着けずにいる人や関連機関に周知していただくための当センターの啓発は十分とは言えませんし、支援拠点として他事業所の相談件数の集約や課題整理ができませんでした。

今後は、アンケート調査結果から課題整理を行い、高知県全域を把握するためにも各圏域ごとのネットワーク化に向けたしくみづくりを行っていきたいと考えます。

5. 高次脳機能障害支援委員会

支援委員会については年に4回の開催としていましたが、24年度につきましては、アンケート調査に向けて当センターと支援委員代表でワーキンググループを立ち上げたため、そちらへの参加を考え支援委員会は3回の開催となりました。毎回、それぞれの活動報告や情報を発表し、情報共有の場となるものでした。

表 1-7

	氏名	職種	所属先
1	朝比奈 亜希子	高知市	高知市障がい福祉課
2	岩本 織江	PT	高知県理学療法士会
3	植木 康敬	主任カウンセラー	高知障害者職業センター
4	上村 直人	医師	高知大学医学部神経科精神科
5	菅 美佐野	ST	高知県言語聴覚士会
6	小松 郁子	家族	NPO 法人脳外傷友の会高知 青い空
7	重松 健二郎	弁護士	高知弁護士会(行田法律事務所)
8	中澤 宏之	医師	高知県医師会(南国病院)
9	田中 佳葉子	SW	相談支援事業所 広場そよかぜ
10	白木 幸子	OT	高知県作業療法士会(菜の花診療所)
11	平石 勝久	チーフ(学校支援)	高知県教育委員会事務局 特別支援教育課
12	宮本 寛	医師	南国中央病院
13	安岡 しずか	看護師	訪問看護ステーションあたご
14	和田 寿美	心理士	近森リハビリテーション病院
オブザーバー			
1	谷 聡子	企画監	高知県障害保健福祉課
2	濱田 美和子	チーフ	//
3	前田 和香	主幹	//

高次脳機能障害に関するアンケート調査 実施要領

1. 目的

高次脳機能障害者支援に関わる県内の医療や福祉サービス等の実態を明らかにし、その資源を有効に活用できる、連携の仕組みや地域における支援体制の整備を検討するための基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査の対象

○医療機関

脳神経外科、神経内科、精神科、リハビリテーション科を標榜する病院・診療所
(神経科、神経精神科を含めるか?)

○福祉施設

【高齢者】

1. 包括支援センター
2. 介護保険サービス提供事業者
 - ・居宅介護支援事業所
 - ・訪問看護
 - ・訪問介護
 - ・小規模多機能型居宅介護
 - ・短期入所生活介護
 - ・短期入所療養介護
 - ・通所リハビリテーション
 - ・通所介護
 - ・認知症対応型共同生活介護
 - ・認知症対応型通所介護
 - ・訪問リハビリテーション
3. あったかふれあいセンター

【障害者】

1. 居宅関係事業所
 - ・居宅介護
 - ・重度訪問介護
 - ・同行援護
 - ・行動援護
 - ・グループホーム
 - ・ケアホーム
2. 施設関係事業所
 - 精神障害者社会復帰施設
 - ・福祉ホームB型
 - ・法定外施設
 - 児童デイサービス
 - 短期入所
 - 新体系事業
 - ・生活介護
 - ・自立訓練(機能訓練)
 - ・自立訓練(生活訓練)
 - ・就労移行支援
 - ・就労継続支援A型
 - ・就労継続支援B型
 - ・施設入所支援
3. 相談支援事業所
 - ・相談支援事業所

4. 地域活動支援センター

○市町村 障害担当課

3. 調査時期

調査対象期間：平成 24 年 6 月 1 日～平成 24 年 6 月 30 日

提出期限：平成 24 年 7 月 10 日

4. 調査内容

○病院用・有床診療所用（入院・通院）

- ① 現在の対応と今後の対応上の方針
- ② 連携上の課題
- ③ 高次脳機能障害相談支援センターの認知度
- ④ 情報の開示

○無床診療所用

- ① 患者数
- ② 今行っている対応、今後の課題
- ③ 連携上の課題
- ④ 高次脳機能障害相談支援センターの認知度

○福祉サービス提供機関用

- ① 高次脳機能障害の認知度
- ② 高次脳機能障害の利用者数
- ③ 居住市町村名・障害の症状
- ④ 対応に苦慮する点
- ⑤ 他機関との連携の状況
- ⑥ 今後の方針
- ⑦ 高次脳機能障害相談支援センターの認知度
- ⑧ 情報の開示

○市町村

- ① 相談実績の有無
- ② 相談内容
- ③ 連携の状況
- ④ 今後の方針
- ⑤ 高次脳機能障害相談支援センターの認知度
- ⑥ 相談担当部署

5. 調査方法

調査対象者への郵送での配布(平成 24 年 5 月中旬)、各調査対象者は FAX で回答する。
集計は高知ハビリテーリングセンターで行う。

6. 調査の実施主体

高知県
高次脳機能障害相談支援センター

7. 問い合わせ先

〒780-0313 高知市春野町内ノ谷 63-6
高次脳機能障害相談支援センター（高知ハビリテーリングセンター内）
担当 土居・久武・半田・久保内・西山
TEL：088-842-1921 FAX：088-842-2601

高知ハビリテーリングセンター(全体)報告

1. 施設行事

日 程	行 事
4月3日	花見(お食事会)
5月27日	高知県障害者スポーツ大会
6月14,21,28日	自立訓練・生活介護遠足(横山隆一記念館とお食事)
8月25日	アビリンピック高知大会参加
8月26日	夏祭り
9月19日	障害者雇用合同面接会参加
10月10日	就労移行遠足(ひまわり乳業見学と山北みかん狩り)
11月15,19,21日	B型遠足
12月27日	もちつき大会

2. 利用者の健康管理

①健康診断

施設入所者：2回実施 1回目：6～7月(35名) 2回目：2月(24名)

健康診断項目：胸部X-P・血液検査・検尿・視力・聴力検査・体重・腹囲及び医師の問診と診察

体重・腹囲及び医師の問診と診察

就労継続支援B型利用者：11月・12月に1回(41名)

就労移行の利用者：1月に1回(10名)

健康診断項目：体重・腹囲及び医師の問診と診察

②入院、救急搬送等

痙攣発作等急変者：4名(1名救急車要請)

就労継続支援B型利用者で入院：5名

入所者・自立訓練で入院：4名

③保健・予防指導

性教育(家族アンケート、本人聞き取り)修了者：13名

3. 管理栄養士の新たな取り組み

加算を算定している内容を充実させること、また栄養士として「食」の面から健康維持・増進を図ることを目的とした取り組みを行いました。
具体的には以下の通りです。

	項 目	内 容
1	療養食管理の充実	主治医指示のもと提供する療養食を充実させる目的で、毎日の栄養量を算出し、指示内容に沿った内容で提供出来る体制を整えた。※給食委託会社に依頼し、管理方法を導入。
2	貼り出し献立の改正	摂取している食事にどのような栄養が含まれているのかを意識してもらう目的で、週間献立に、1日の「E補給量」「たんぱく質量」「脂質量」「塩分量」を記載した。
3	選択メニューの実施	食事満足度の向上と食事摂取量増加に伴う必要栄養量の確保を目的として、毎週1回(木曜日)、①朝食の主食と飲み物、②夕食の主菜を、利用者自身に選択してもらう形式をスタートした。
4	栄養ポスター(ハビリ・ヘルシー Times)の作成・掲示	健康増進・または基礎疾患の改善を目的として、主として「食」に関連した健康情報を記載したポスターを作成し、施設内に掲示を行うことにした。
5	献立検討会の実施	食事満足度の向上及び健康増進・基礎疾患の悪化防止を目的として、提供食事内容を充実させる為、毎週1回(金曜日)、給食委託会社の栄養士と提供する献立について検討を行なうことにした。※残食調査・検査簿・提供食の写真・食事アンケートの結果等を参考資料として使用。
6	骨あり食材の提供	通常安全面を考慮して「骨なし」の食材を使用して調理提供しているが、自立支援を目的として、「骨あり」魚の提供を行った。
7	食事カード	季節感を感じてもらうために、見た目にもわかりやすいカードをお膳に添える。(添付資料2)

4. 職員実習生

生活支援部に県立大学より介護実習生5名。

日程	人数
6/12,13,15,20,22,23	3名
6/26,27,29,7/3,4,6	2名

5. ハビリ職員の委員会活動

委員会名	職員数	活 動 内 容
マニュアル委員会	5名	マニュアルの追加等の確認
感染委員会	5名	ペーパータオル、ハンドソープ等の在庫管理、発注
システム委員会	9名	システムの不具合状況を日々確認
行事委員会	7名	季節行事の企画、運営 (花見、夏祭り、もちつき大会)
災害対策委員会	4名	災害マニュアル作成、県に提出
図書委員会	4名	本の貸し出し確認、新刊の検討、購入
スポーツ委員会	5名	利用者対象もしくは職員のスポーツ大会の連絡調整
食の委員会	5名	季節ごとのお食事会企画、運営

6. 職員研修(外部)

日程	研修名	参加者
5/24-25	相談支援従事者初任者研修(県社協研修センター)	4名
5/24-25	新人研修(近森会)	5名
6/7-9	相談支援事業所初任者研修(県社協研修センター)	4名
6/29	発達障害に関するセミナー(療育発達支援部)	5名
7/3-4	福祉職場の新人研修(県社協研修センター)	2名
7/7-8	四国フォーラム in 高知(全国地域生活支援ネットワーク)	1名
7/2	高知大附属特別支援学校授業参観	3名
7/3	〃	3名
7/4	〃	3名
7/5	〃	6名
7/6	〃	2名
7/13	精神科スキルアップ研修会 2012 地域医療講演会「リワークへの道しるべ」	1名
7/13	高知県発達障害者就労支援セミナー	5名
7/25	第1回農福連携事業担当者会	1名
7/29	ステップアップ研修会 リスクマネジメント	1名
8/1-3	自閉症支援者のための実技講習会	1名
8/11	リスクマネジメント(介護福祉士会)	1名
9/13	福祉サービス苦情解決セミナー	2名
9/23	平成24年度 高次脳機能障害支援関係職員研修会	1名
9/24-25,10/4	平成24年度 就業支援基礎研修	2名
9/26-28	障害者ヘルスプロモーション事業に関する研修会	1名
9/27-28	アマノリハビリテーション病院	2名
10/5-6	平成24年度 障がい者施設経営セミナー	1名
10/11-12	福祉職場の中堅職員研修会	3名
10/19-22	第33回 アビリンピック全国障害者技能競技大会	1名
11/1	障害者職業訓練推進交流プラザ	1名
11/3	平成24年度 愛媛県高次脳機能障害支援拠点機関講習会	3名
11/3-4	高次脳機能障害リハビリテーション講習会	2名
11/5,11/26-27	サービス管理責任者等研修	2名
11/6	PIPOT 高知 パン教室	1名
11/16	身体障害者リハビリテーション研究集会 2012	5名
11/16	事業者のための南海大地震対策セミナー	1名
11/17	頸髄損傷者に対するリハビリテーション研修会	1名
11/17	徳島高次脳機能障がいリハビリテーション講習会	1名
11/20,27	市民学校楽しいパンづくり教室	1名
11/29-30	平成24年度 中国・四国地区身体障害者更生施設長会議及び職員研修会	4名
12/5-7	発達障害者就業支援セミナー	1名
12/6-7	サービス管理責任者等研修分野別研修	2名
12/7	PIPOT 高知 パン教室	1名
1/8	〃	1名
1/12	社会福祉施設における防災・危機管理のあり方	1名
1/18-19	高知県社会就労センター協議会合同職員研修会	1名
1/25-27	職業リハビリテーション実践セミナー(高次脳機能障害コース)	2名
1/26	PS 職員基本研修	9名
2/1	自閉症支援者のための実技講習会 実践交流会	1名
2/2	土佐リハビリテーションカレッジ	7名
2/3	クリーニング師研修会	2名
2/5	PIPOT 高知 パン教室	1名
2/22	H24年度給食関係者研修会	1名

3/8-9	第 196 回療育研修会	3 名
3/14,15,18,19,21,22	療育福祉センター	4 名
3/24	在宅歯科人材育成研究会「食べられることができる口づくり」のために	1 名

7. 職員研修(内部)

日程	研修名	講師名	参加人数
5月15日	FIMとICF	石丸辰也(自立訓練部主任)	28名
6月1日	障害概論	是永かな子(高知大学)	30名
7月24日	事例検討会	田野岡寛治 森岡香絵	30名
7月31日	触法者の現状について	北村善民(地域定着支援センター)	33名
8月24日	QCサークル	石丸辰也(自立訓練部主任)	41名
10月23日	人生設計の着眼点	中西洋明(ライフプランナー)	29名
11月1日	予演会(全国リハビリテーション研究集会)	矢野晶子 森岡香絵	15名
1月22日	聴覚障害者とのコミュニケーション	山中睦子(高知県聴覚障害者協会)	29名
3月27日	障害概論(新人研修)	是永かな子(高知大学)	19名
3月27日	障害児教育・福祉が目指すもの	//	39名

8. 職員会議

会議名		開催日	開催時間
職員会		毎朝	8:30- 8:45
		毎夕	16:50-17:00
		第2火曜日	16:10-17:00
ハビリ幹部会		第1, 第3火曜日	14:00-16:00
利用一次判定会		随時	
各科会議	自立訓練	毎週水曜日	15:00-16:00
	就労移行	毎週木曜日	16:30-17:00
	就労B型	毎週金曜日	16:15-17:00
	施設入所	毎月1回(月末)	17:00-18:00
	世話人	毎月1回(月初)	9:00-10:00
	ソーシャルワーカー	週1回	9:00-10:00
プログラム検討会		1ヶ月に1回不定期	15:00-16:00
ｽｰﾍﾟﾝﾀｰとの会		1ヶ月に1回不定期	15:00-16:00
自治会との会		年4回 (5, 8, 11, 2月)	16:00-16:50

《食事カード》

